

「顔の見えるサービス」で社会貢献

株式会社アイ・シー・エー

1. 会社紹介

平成10年、コンピュータがあらゆる機器に組み込まれる時代を予見して設立。社名は、International Computing Assistantの頭文字を採用してICA（アイ・シー・エー）とした。インテル社のx86系のCPUを中心とした組込みコンピュータを設計・開発している。なお製造は大手EMSであるNECコンピュータテクノ社やフレクトロニクス社などに委託している。

平成12年には、WindowsOSのROM化（読み出し専用記憶装置）について特許を取得。また、大手通信会社系列の研究所と連携し、IPテレビ電話パソコンを開発した。さらに官公庁向けに車載搭載する小型コンピュータも開発し、独創性と将来性のみならず、社会に役立つ事業と評価され、平成18年には埼玉県主催の第一回「渋沢栄一ベンチャードリム賞」の大賞を受賞した。

2. 顔の見えるIPテレビ電話パソコンで飛躍

当社が開発したIPテレビ電話パソコンとは、インターネットを利用したパソコン機能付きのテレビ電話である。インターネット回覧とテレビ電話が同時に動作し、あたかもその場に居るように資料を見ながら、色々な会話が出来る環境を提供できる点が最大の特徴になっている。

使い勝手を考え、高性能、高品質ながら、高

齢者にも利便性を配慮したタッチパネル方式を採用した。お互い相手の顔を見ながらコミュニケーションを図ることができるため、特に医療や高齢者を対象としたサービス分野での導入が期待されている。IPテレビ電話が普及することによって、別の利点もある。環境問題の最大の原因は二酸化炭素にあると言われているが、その多くは、人が移動する為に使用する車などから発生している。そもそも企業サービスや行政サービスを受けるために、消費者が移動しなければならないのもおかしい。サービスを消費者の手元に届けるIPテレビ電話は、環境問題解決のキーワードにもなる。

また、デジタル化元年は、各家庭に光通信などのブロードバンドが2000万所帯に配備されると言われている。用途として、50%が行政サービス、80%が健康、医療分野とも言われている。高速ネットで相手の表情を見せるIPテレビ電話は、最先端のデジタル技術で「人間」という心の営み（アナログ）を伝える道具である。「顔が見える」ということは、人間が悪いことをしにくい環境を作ることでもある。これでネットオークションをやれば、物に込めた思い出まで相手に伝わり、落札した物を大切に作る心も生まれる。コンピュータの便利さは追求しても、あくまでも人間が主体でいられるのだ。

当社は、蓄積した技術を基に大手企業を対象に製品化プロセスの各段階で技術支援を行うド

ジネスモデルを確立している。工場を持たないのも当社の特徴である。国内の製造ライン（NEC系EMS会社）を有効に活用し、OEMやODM生産を積極的に手掛けることで、日本のモノ作りに貢献しようと考えている。

3. 今後のビジョン

これから次世代ネットワーク（NGN）の時代が訪れる。デジタル化元年は2010年という話もある。そのことは、2010年までに、全国2000万所帯にブロードバンド（光回線やCATV網）が配備されるという事に起因していると考えられる。通信インフラが整えば、IP化により映像配信や映像電話が急速に普及すると思われる。そのさいには、当社が“顔の見えるサービス”を世の中に普及させることが使命と思っている。インターネットの特徴として匿名性があるが、逆に顔を見せないことにより犯罪の温床になっていることも否定できない。今後、高齢化社会が進めば、高齢者が次なるターゲットになることが心配される。当社には振込詐欺などの犯罪から高齢者を安全に守り、安心してもらうという社会的使命があると思っている。そこで、当社では、インターネットを活用したサービスにおいて、サービス提供者は勿論、サービスを受ける側も、遠隔であってもあたかも対面サービスを受けているような環境を提供することで、ブロードバンド時代の新しいサービス産業の形態を社会に提案するものである。顔が見えることで悪い事ができない環境を提供することもできる。健康・医療業界、行政やサービス業界で、顔の見えるサービスは不可欠なツールになると確信している。そこで、当社では顔の見えるサービス端末であるIPテレビ電話端末だけでなく、人と人が心で触れ合えるデジタルインフラでアナログを伝えることが重要と認識し、コンセルジュ型の顔の見えるコンタクトセンターの普及を目指している。

加えて現在の郊外型大型店舗や海外の安いものを大量に販売する時代は、終焉すると考えている。その良き昔のように、地域力を活かして御用聞きが配達をするような時代が到来すると予見している。地域の商店街でテレビ電話を通して、その地域の方言丸出しの顔見知りの方から「お客さん、今日は顔色がいいねえ～、今日は何かほしい」などと注文を取り、自宅に配達をする。そして、IPテレビ電話とコンタクトセンターが独居老人の安否確認など地域のコミュニティ力で地域力を活かす、顔の見えるツールとして活用される時代も遠くないと確信している。

「これからも身近で真実の生活を豊さや心のこもった製品開発を通じて、社会に貢献していきたい」。これが当社のビジョンである。卓越した開発力と真実の社会ニーズを中心とする人間力で時流を見据えた製品開発とビジネスモデルを世の中に提供、提案して行きたいと考えている。そして、社会貢献の精神を原動力として更に“世の為”“人の為”になることをしたいと社員一同決意している。更なる飛躍に向けて頑張っていきたいと思う。

本社 〒346-0016 埼玉県久喜市東2-5-33
関口第3ビル1F
www.ica-ua.co.jp



IPテレビ電話PC